

本誌第17巻第5号に日本内視鏡外科学会ならびに関連学会の会員を対象とした「内視鏡外科手術に関するアンケート調査」の第11回集計結果報告が公表された。124ページにおよぶ立派な内容であり、日本の内視鏡外科の発展の経過がよく理解できる。特に、多くの分野で内視鏡下手術数が年ごとに増加しており、今後も内視鏡外科の普及が予見される。

これらは、内視鏡外科を行う医師数や施設数が増加し、適応を拡げてきた結果である。内視鏡外科に興味を持ち、実際に行う医師をいかに増やすかは大切な課題である。

先日、私の知り合いの教授から胆道疾患に対して腹腔鏡下手術を行ったことを聞いた。それ自体は決して新しいことではないが、手術時間が長くなったものの術後経過は良好だそうである。その教室の若い先生が胃疾患の腹腔鏡下手術を行った。複数の上級医らが助手をしながら見事に手術を成し遂げ、術後の経過も良好だそうである。

私が感心したことは、組織の責任者自らが内視鏡外科に積極的に取り組み、中堅医師ばかりでなく若手医師までも興味を持ち、さらにその若手医師を育てようと中堅医師が粘り強く指導するという、組織全体の勢いが生まれることである。それは内視鏡外科を行う医師数を増加させ、内視鏡外科のさらなる普及をもたらすはずである。

内視鏡外科は通常1人で行うことは不可能である。複数の医師が協調して参加することで、手術の質が高まる。外科系組織の責任者には、1人の医師が内視鏡手術で孤軍奮闘するような環境が残っていれば見直して、内視鏡外科を推進するような体制を作っていただきたいものである。

ところで勉強は独学が可能である。本誌は本邦における内視鏡外科の情報発信の場であり、珍しい症例、新しい工夫、多数症例の分析など、読むのが楽しい論文が数多く掲載されている。内視鏡外科の知識は本誌から存分に得ることができる。

編集委員会作業をしていると、誤った方法や分析、偏った考察、不適切な文章表現など1人執筆で陥りやすい問題を抱えた投稿論文が散見される。途中で軌道修正や最後の仕上げには共同執筆者の協力が不可欠である。論文執筆にも1人ではなく複数の執筆者による共同作業が必要である。

「1人では何もできない」。つまり内視鏡外科も論文執筆も複数の協力者がいてはじめて成功するのだと思う。今後多くの先生方と力を合わせて、ますます内視鏡外科を発展させていきたい。

(小澤壯治)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第17巻 第6号) 2012年12月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価：2,940円(本体2,800円+税5%)。*会員には毎号送付されます。

2012年 年間購読料：冊子版17,160円、電子版/個人17,160円、電子版/共有19,800円、冊子+電子版/個人22,160円、冊子+電子版/共有24,800円(税込)(配送料：医学書院負担)*会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行：日本内視鏡外科学会(代表：北野正剛)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18階

日本コンベンションサービス株式会社内

☎03-3503-5917 Fax 03-3508-1302 E-mail: jses@convention.co.jp(担当：野上)

http://www.jses.or.jp

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 18F-1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2012, Printed in Japan

発売：(株)医学書院(代表：金原 優)(本誌担当：水野、田村、安部) http://www.igaku-shoin.co.jp/

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23(振替口座00170-9-96693番)

本誌編集室直通 ☎03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802/E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●原著

腹腔鏡下幽門側胃切除術における末梢神経ブロック併用術後鎮痛法の検討 ……福井淳一・他 関西医科大学外科学
 単孔式腹腔鏡下虫垂切除術の検討—導入後 1 年間の経験 ……佐藤嘉紀・他 福井県立病院外科
 肥満症例 (BMI ≥ 25 kg/m²) における腹腔鏡下

虫垂切除の検討 ……北薊 巖・他 鹿児島大学大学院循環器・呼吸器・消化器疾患制御学
 閉塞性大腸癌に対する経肛門的減圧チューブを用いた一期的腹腔鏡下手術 ……井出義人・他 市立吹田市民病院外科

●症例報告

腹腔鏡下に切除した肝機能異常を呈した肝副葉の 1 例 ……松本 拓・他 三田市民病院外科
 胃癌検診後に腸閉塞をきたしたバリウム糞石の 1 例 ……沖田充司・他 第一東和会病院内視鏡外科センター
 腹腔鏡補助下に解除した食道癌術後腸痙に起因した内ヘルニアによる

イレウスの 1 例 ……三浦宏平・他 新潟大学大学院消化器・一般外科
 術前診断しえた胃 glomus 腫瘍に対し腹腔鏡・内視鏡合同胃局所切除術を施行した

1 例 ……村瀬勝俊・他 平野総合病院外科
 腹腔鏡補助下に手術を施行した下行結腸リンパ管腫の 1 例 ……山本 学・他 国立病院機構浜田医療センター外科
 腹腔鏡補助下大腸切除術を施行した特発性腸間膜静脈硬化症の 1 例 ……鯉沼広治・他 自治医科大学消化器外科
 S 状結腸過長症に対する単孔式腹腔鏡補助下経肛門的 S 状結腸切除術 ……福澤宏明・他 静岡県立子ども病院小児外科
 他に症例報告が数編あります。但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。